

## 第 11 章 心霊スポット

国府 孝史

### 11.1 心霊スポットとは

#### 11.1.1 心霊スポットの定義

そもそも心霊スポットとは何なのか。おそらく一般に、心霊現象が起こる地点を心霊スポットと呼んでいるだろう。そこでまず、心霊現象とはどのようなものなのかを調べてみた。

心霊現象はそもそも「物理的心霊現象」と「精神的心霊現象」に分けられる、とされている。

「物理的心霊現象」とは、霊の作用により何らかの物理的に観測可能な現象を生じるものとされ、例えば、物質化現象、瞬間移動、物体浮揚、ラップ現象、ポルターガイスト現象などが含まれる。

「精神的心霊現象」とは、物理的現象を伴わず、霊媒が霊からメッセージを受け取るものであるとされ、例えば自動言語、口寄せ、霊視、霊聴などであるとされている。俗に言うイタコもこちらのジャンルになる。

霊の介在によって生じたとも考えられており、現時点での一般的な自然科学的な知識では説明しきれないとされる現象のことを一般に心霊現象と呼び、今回はそのような現象が発生する地点を心霊スポットと呼ぶことにする。

#### 11.1.2 心霊スポットに現れやすい霊

心霊スポットにはおおよそ、何かが”出る””いる”等の話がついており、それらはもともと人間として生活していたものが、何らかの理由によりこの世にいられなくなったものの、この世への執着心から残ってしまったものだと思われる。そしてそれらの死因は、事故死、自殺、他殺など様々ではあるが、この世に悔いの残る亡くなり方をしている。本章の次の項で述べる豊浜トンネルについても、はじめは伝説としての話が伝えられてきたが、本格的に霊が出るという話が出てきたのは事故後のことである。

その他、北海道の心霊スポットでよくある話が、強制労働の従事者が亡くなって完成した施設に現れるというものである。それは北海道の開拓時に、本土の囚人を動員したり 20 世紀に入り太平洋戦争が終わるまでは、朝鮮人や中国人を強制労働に従事させたということが関わっている。囚人による強制労働で、北海道には、囚人道路（現在の北見峠から網走市）と呼ばれる道が存在したり、タコ部屋労働の起源となっている。

後述する中国人墓地や雨竜第一ダムのある朱鞠内湖、JR 石北線の常紋トンネルなども建設時に強制労働が行われた施設として有名であり、常紋トンネルでは改修工事の際に人柱として埋められていた人骨が発見されている。

## 11.2 豊浜トンネル

### 11.2.1 豊浜トンネル岩盤崩落事故

1996年2月10日午前8時10分頃、古平町側の坑口付近において岩盤（最大高さ70m・最大幅50m・最大厚さ13m・体積11000m<sup>3</sup>・重さ27000tと推計）が崩落。トンネル内を走行中だった北海道中央バスの積丹町余別発小樽駅前行き路線バス（乗客18名、運転手1名）と、後続の乗用車（1名乗車）の2台が直撃を受け、20名全員が死亡した。

図 11-1 旧豊浜トンネルと新豊浜トンネルの位置関係



トンネル内の事故現場は多数の瓦礫に塞がれ、内部に閉じ込められた車の様子が確認出来ず、さらに、巨大なまま上部に残留している岩盤を除去しない限りは再崩落の危険があり、内部に入ることができなかつたため、岩盤を発破により海側へ滑らせて除去することとした。しかし、内部にいる人が生存している可能性も考慮し、岩盤除去に使用する爆薬の量が制限されたため、岩盤除去作業は難航した。11日より14日にかけて、4回にわたる発破作業の末ようやく岩盤を除去することができた。この事故で、救出作業の障壁となったのは、体積が10000m<sup>3</sup>、重さ27000tに及ぶ巨岩であった。これを取り除くために行われた発破作業では、3回目までは事故対策本部の計画通りには行かず、予定の結果が得られなかったが、4度目の発破でようやく岩石は崩壊した。岩盤除去後に瓦礫は取り除かれたが、乗用車は原形をとどめておらず、また、バスは3mあった高さが1mにまで押し潰されており、死因は全員とも圧死で、ほぼ即死状態であったと考えられる。実際に被災者全員の遺体が収容されたのは、16日であったことから、岩盤除去後の瓦礫撤去にも多くの時間を要したことがわかるだろう。ここまで事故発生から158時間が経過しており、もし崩落によって亡くなっていなかったとしても救出は絶望的であ

図 11-2 発破後の岩盤



った。

崩落に至った原因としては、付近の地下水が湧出している部分が厳冬期に凍結し、地下水圧の上昇を毎年繰り返すことで、岩盤の亀裂を徐々に成長させたためと見られている。

なお、岩盤を除去するための発破作業中に、「崩れた岩の形が人の顔に見える」と話題になり、一部新聞では報道されたもののその後の報道はなかった。豊浜トンネルではこの事故以前から、アイヌの伝説等の心霊現象に関する噂が地元住民の間で流れていた。しかしこの事件以降、事故での死者が霊となって”出る”という噂がまことしやかに囁かれていた。このことが局地的に話題となり、「発破後の岩盤が人の顔に見える」という話も流れた（図 11-2 参照）。

事故後、豊浜トンネル近辺に迂回路が一切ないため、余市町と古平町・積丹町の間を往来するには岩内町・神恵内村を経由して大きく迂回するほかなく、一時半孤立状態となったが、数日後には既に廃道として閉鎖されていた海側の旧豊浜隧道を活用（旧隧道は断面が狭小で大型車のすれ違いが不可能であったため信号機による片側交互通行とされた）する形で仮復旧した。その後 1996 年 12 月 10 日には事故現場の復旧を終え、旧豊浜トンネルが再開通した。後述する新トンネルが完成する 4 年ほどは、事故後も同じトンネルを通ることとなっていた。

### 11.2.2 豊浜トンネルの現在

崩落事故を受け、北海道開発局ではルートそのものの見直しを行い、豊浜トンネルの途中から分岐して崩落現場を避ける形で山側へ掘り進み、古平町側のセタカムイトンネルの途中へ合流して戻る中継トンネルを掘削して、より安全なルートに切り替えることとした。この計画の前には古平町民 3,807 人を含む 14,273 人分の署名も町長に渡され、当時の中尾栄一建設大臣と岡部三郎北海道開発局長官にも渡った。この工事は 2000 年 12 月 8

日に完成し、セタカムイトンネルを編入した全長 2228m の現在の豊浜トンネルとして開通した。その後トンネル内の旧ルートとの分岐部から先は封鎖された。現在も旧トンネルの入口は完全に封鎖されており、どちら側からも立ち入りできない状態になっている。

崩落現場は入り江状にやや奥まっているため、現在は両側の海岸線からは現場方面を望むことはできない。また、海岸線は切り立った崖のため、現場への到達は徒歩では困難で、船でしか行けない。なお、現行豊浜トンネルの古平側坑口（旧セタカムイトンネルの古平側坑口）脇には防災祈念公園として駐車場とトイレを新設された。その敷地内に慰霊碑が設置され、誰でも常時訪れることができるほか、トイレ隣には事故概要とトンネル防災に関する

図 11-3 崩落事故慰霊碑



展示コーナーも併設されている。

## 11.3 北海道の主な心霊スポット

### 11.3.1 神居古潭（旭川市）

旭川市の中でも 1、2 を争う有名な心霊スポットである神居古潭には、いくつかの”出る”と言われるスポットがある。代表的なものは、吊り橋、電話ボックス、自転車道の神居古潭トンネルの 3 つであろう。今回は吊り橋について取り上げていきたい。

この吊り橋は神居大橋といい、入水自殺の名所と言われており、飛び降りをしたという話が代表的である。そしてこの下に流れる石狩川についても興味深い話があり、「川は渦を巻いていて、自殺死体は浮かび上がらず下に沈んでいく」「一回飲まれると岸に上がることはできない」「川底がすりばち状になっており、死体が上がらない」と言われている。石狩川の話は旭川を開拓する前、アイヌ民族が住んでいるころから伝えられている話である。実際にアイヌ記念館の館長である川村氏の話では、「昔からカムイコタンは川下りの難所であり、昔は実際に沈んだ船がいくつもあると聞いている」と説明していただいた。

この吊り橋以外にも、近くのトンネルや電話ボックス、駐車場、公衆トイレなどでも心霊現象が起こったと言われているが定かではない。私自身も付近の国道を何度も往来しているが、何も見たことも起こったこともない。

### 11.3.2 旧比布トンネル（比布町）

近郊の心霊スポットより、まず旧比布トンネルを紹介する。このトンネルは、新比布トンネルが完成した 2003 年に通行止めとなり、進入禁止となっているが使用時より多くの噂が流れていた。

ここでもアイヌのころからの伝説がある。それは、この比布トンネルがある突哨山はアイヌの人たちに、地獄に通ずる穴という意味の「アフルルパル」と呼ばれていた。これは小学校の地域教材や TBS 系列「まんが日本昔ばなし」でも紹介される有名な話である。そのあらすじは「比布町に伝わるアイヌの伝説のひ

図 11-4 神居大橋



図 11-5 旧比布トンネル



筆者撮影

とつ。その昔、アイヌの人たちは石狩川をつたって比布原野に来て、サケやケモノを獲っていました。突哨山と棚瀬山にはチャシやチセもあったという。突哨山には小規模ながら鍾乳洞があって『地獄へ通ずる穴』という伝説が生まれ」というものである（上川中部ポータルサイトより引用）。

このトンネルは現在立ち入り禁止となってはいるが、閉鎖後も完全には封鎖されず、興味本位で立ち入る人も多い。そのため、実際に入って見た人がインターネットに潜入レポートとして上げたり、YouTube に内部の様子を投稿されたりしているが現在のところ対策は打たれておらず、未だに侵入できる状況である。余談ではあるが、旧比布トンネル近くにドライブインがあり、国道沿いということもありトンネルの前の通りは今でも比較的車通りが多い。

### 11.3.3 中国人墓地（東川町）

旭川近郊に住む人なら心霊スポットとして、この中国人墓地という名前を聞いたことがない人はいないだろうというほど有名なスポットである。正式名称を「中国人殉難烈士慰霊碑」といい、戦時中に強制労働に従事した中国人を弔っている碑である。

道道 1160 号線沿いに「中国人殉難烈士慰霊碑建立」という看板があり、そこを左に曲がり坂を登ると中国人墓地はある。入り口には 7 体の地蔵があり、その奥に慰霊碑が存在する。中国人墓地では四つん這いの男の霊などが出る、突然スマートフォンの電源が落ちる、写真にオーブが写りこむなどの現象が起こったと耳にすることがあるが、定かではない。

ここで弔われている中国人たちが従事した作業は、江卸発電所と東川遊水池の建設工事である。中国人 800 人余り、朝鮮人 400 人弱が動員されたと言われているが詳細な数字は未だにわからない。ここで亡くなった人数も詳しく明かされていないが、近くのお寺に 2 体の遺体が眠っていると言われ、さらに今でも遺骨の発掘が行われていることから、多くの犠牲者がいたことが伺われる。東川遊水池は整備され、今では公園としても町民に利用されている。江卸発電所は、現在は存在せず、取り壊され、跡地は忠別ダムや忠別発電所として利用されている。

## 11.4 おわりに

最近では、中国人墓地にある地蔵が倒されたり周辺を荒らされたという事件が起きた。この墓地で実際に霊などが出るか出ないかはわからないが、墓荒らしは立派な犯罪である。場所によっては心霊スポットを訪れること自体が不法侵入などに該当する可能性があり、訪れる際もそのようなことがないように十分に注意していただきたい。

最後に、この章を作成中に北海道中川町でトンネル建設中に崩落事故が発生し 1 名の作業員が亡くなられた。事故発生後、作業は一時中断されてはいるがいずれ完成し利用されることとなるだろう。亡くなられた方へのご冥福を捧げるとともに、完成後のトンネルに霊と

して出ないことを祈り、本章の締めとさせていただきます。

## 参考文献

- ・羽仁礼, 2001, 『超常現象大事典』 成甲書房.
- ・GHM, 2006, 『怨念地図潜入レポート』 コア・アソシエイツ.
- ・久我羅内, 2009, 『不可思議現象の科学』 サイエンス・アイ新書.

## 参照 HP

- ・旭川市 HP

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp>

- ・Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/豊浜トンネル>

- ・NHK 名作選-豊浜トンネル

[http://cgi2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das\\_id=D0009030277\\_00000](http://cgi2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009030277_00000)

- ・オカルト情報館

<http://www.occultic.net/occult/shinnreisupotto/hokkaidou.html>

- ・上川中部圏ポータルサイト

[http://www3.city.asahikawa.hokkaido.jp/jichitai/06\\_pippu/01\\_kanachi.html](http://www3.city.asahikawa.hokkaido.jp/jichitai/06_pippu/01_kanachi.html)

- ・心霊-豊浜トンネル

<http://gost.s35.xrea.com/hokkaidou/read.cgi?DIR=hokkaidou&FILENAME=1240883412>

- ・心霊マップ

<http://ghostmap.net/spotdetail.php?spotcd=788>

- ・比布町 HP

<http://www.town.pippu.hokkaido.jp>